

みんなとともに笑顔いっぱい — 創立百周年 その先の未来へ みんなとともにスマイルミッション —



# みんなとともに



子どもたちの「家庭学習の習慣づくり」の効果はでているでしょうか。「習慣」とは「当たり前でできている状態」を指します。親に言われなくても「習慣」として勉強をしている、「習慣」として本を読んでいる、そんな子どもたちに育てたいなあ、と考えています。小学校で身につけた「学びの構え」は、きっとその先も役立っていくことになると思います。人生は学びの連続、学ぶ姿勢こそが「財産」です。



## 「市鼓笛パレード」が行われました

順正とはなりませんが、「市鼓笛パレード」が5月16日(木)に行われました。「清明小」のプラカードを先頭に、堂々とした演奏を観衆の皆様へ披露することができました。

恒例なのが、鼓笛の行進とともに歩道を種蒔する菜園者の皆様の姿ですが、よい映像を撮ることはできたでしょうか。駒ナツけてくださいました皆様へ感謝いたします。

なお、5月25日(土)に行われます「百周年記念大運動会」でも演奏を披露しますので、応援をよろしくお願ひいたします。



## 5月15日(水)「清安全の日」

全校の子どもたちが揃った場で、百周年記念大運動会の「スローガン」が発表されました。各学級の提案のよいところを取り入れたとのこと。

その後、地域の見守り隊の方に見守られて、子どもたちは下校してきました。

水曜日は、全学年5校時での下校で、メリハリのある生活をしています。



## 【校長のつぶやき】 その13 「スケーリング・クエスチョン」

以前、「例外」と「成功の責任自負」について書いたことがあります。関連して、教育権衡的な手法の一つに「スケーリング・クエスチョン」があります。それは、「0を最悪、10を最善(0から10までの尺度)としたときに、今の状況はどのあたり?」と聞くことです。

もしかすると、「2」という答えが返ってくるかもしれません。そのときに大切なことは、「-8」に目を向けるのではなく、「2」もあることに目を向けることです。「すごいね、2もあるんだ。何ができているのかな?」と「成功の責任自負」をしなくて、「できない自分」から「できている自分」へと意識を変えることができます。

また、「1」あがった状態を考えると、「何をしたらよいか」という次の一手が見えてきます。

私たち大人(親)も「できていること」「うまくいっていること」に目を向けると、落ち込まず済むかもしれませんね。だって、この大変な世の中を生き延びるだけで、価値のあることなのですから。